

第19回

大分県生協大会開催

県生協連に加盟する12の生協は、生協運動の発展と会員相互の交流を深めるために、「第19回大分県生協大会」を県生協連主催で10月21日(水)全労済ソレイユにて開催しました。

今回は、「コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシミュレーション」となりました。このぼうさい塾は、近年、大規模な災害が相次いで発生しています。大分県においても、毎年のように集中豪雨・台風などの風水害に見舞われ、また直下型地震や東南海・南海地震の発生も懸念されています。このような自然災害の発生を防ぐことはできませんが、災害による被害は、県民一人ひとりの日ごろの努力によって減らすことができます。

大分県の防災対策については、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」、行政による「公助」を基本理念とし、地域社会の防災力を向上させることによって、被害を最小限におさえる減災社会の実現に向けた「大分県減災社会づくりのための県民条例」が制定され、平成21年4月1日から施行されました。

県連としても、この県民条例の趣旨に賛同し、減災社会の実現に向けた各種取り組みを進めているものとして、「コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシミュレーション」とは、日本生協連が提案している組合員活動で、地図上の地震模擬体験を通し、みんなで地震の被害を減らすためのプログラムで、2008年度でも全国では30生協、2300人の組合員が参加していることから、県連としても生協大会のテーマとして「災害対策」を課題として取り組んだものです。

この日は、県下の生協組合員や役員など75名が参加し、大会は、主催者として足立会長理事が「生協法制定」を記念して毎年開催しています。本年度はこれまでの講演を聞くというものからみんなが参加して考えるものを企画することになり、「災害対策」を課題として開催することになったことを含めたあいさつがありました。

「コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシミュレーション」は、日本生協連組織推進本部震災担当の亀山薫・山岡満さんが講師となって最初は阪神・淡路大震災や中越地震などの大地震の災害状況を示すビデオの上映があって、参加者が7つの班に別れて大分市の鶴崎地区を中心とした大型地図にスーパーやコンビニ、病院、避難所等の防災情報を書き込みで、地震の揺れってどんなもののビデオ上映、その後、講師がラジオアナウンサーとなって地震情報を発信して、参加者が地図の上での避難所に避難するための模擬体験がありました。さらに、避難所の生活・食事メニューをみんなで考える時間があり、最後に「ある少女のおはなし」のビデオ上映があって終わりました。

参加者からは、これまでは講演を聞くばかりだったが、①参加できるものであったので良かった、②なかなか日常では考えることのないことですので、非常に参考になりました、③家の耐震診断や家具の配置を考えたい、④自宅の場所の周囲にある避難場所・病院・スーパー等の再確認の重要性が分かった、⑤自分なりに減災を考え、地域での活動に生かしたい等の感想をいただき、有意義な生協大会であったと思います。

